

2025年4月3日 理事会事務局会議      2025年4月17日 理事会事務局会議  
2025年4月19日 第1回理事会      2025年5月1日 理事会事務局会議  
2025年5月17日 第2回理事会      2025年6月21日 定時評議員会

社会福祉法人 ちどり福祉会

## 2024年度 事業活動報告

### I. 情勢の特徴

- (1) 昨年10月の総選挙の結果、政府与党は過半数を割り、私たちの切実な要求を前進させられる条件が生まれました。この根底にいのち優先の社会をと運動を強めた私たちのとりくみがありました。7月には参議院選挙があります。連帯と共同をひろげ、「非戦・人権・暮らし」を高く掲げ、平和で公正な社会に向け、現場から声をあげ、要求を実現していきましょう。
- (2) 石川・能登で発生した地震から1年5ヶ月、復旧途上を襲った豪雨災害から9ヶ月が経過しました。各地で行政サービスやインフラが元に戻りつつあるものの、山間地や沿岸部では未だ復旧がすすんでいない現状、被災者の医療・介護の一部負担金・利用料免除の継続など、問題は山積みです。新型コロナウイルス感染症に関する報道はほぼなくなりましたが、昨年10月の厚生労働省の人口動態統計では、2023年5月～24年4月の1年間で死者数が計3万2576人に上り、季節性インフルエンザの約15倍と格段に多く、その97%が65歳以上の高齢者であったことが判明しました。一人ひとりのいのちと健康、暮らしを守る政治と日本社会のあり方を追求していくことが必要です。
- (3) 石破政権は2024年度補正予算において能登半島の復旧・復興予算の3倍にあたる、8268億円の防衛費を充てました。企業団体献金が防衛費増、経済優先の政策実現というゆがみをもたらし、平和、人権、いのちと暮らしに背を向けています。社会保障分野では、「大軍拡財源確保のため社会保障費の削減、世代間対立をあおっての給付削減、全世代の負担増」（全日本民医連第46回総会運動方針）の路線を継続し、全世代型社会保障改革に向けた「改革工程」の実行で、大改悪をすすめようとしています。
- (4) 石破政権は昨年12月、高額療養費制度の上限引き上げ案を現役世代の保険料負担の軽減を理由にまとめたものの方針転換が相次ぎ、3月7日には制度見直しの凍結を求める患者団体との面会后、「見直し全体について実施を見合わせる」ことを表明しました。しかし制度の見直しそのものは撤回せず、2026年度以降のあり方は今秋までに再検討し決定すると表明しました。世代間の分断のみならず、健康な人々と療養中の人々との間に分断を持ち込み、健康の自己責任論をいっそう強める高額療養費制度見直しの白紙撤回を求めるとりくみが引き続き必要です。
- (5) 東京商工リサーチの調査によると、2024年1月～12月の介護・老人福祉事業の倒産件数は172件（過去最多）、うち訪問介護は81件となりました。今年4月に新たに公表されたレポートでは、2024年度（2024年4月～2025年3月）の倒産件数は179件、うち訪問介護は86件（前年比21.1%増）とどちらも過去最多を記録しました。86件中93.0%が職員10人未満の小規模事業者であり、深刻な人手不足や人材獲得競争の激化、物価高騰、さらに基本報酬の引き下げが追い打ちをかけたとみられています。
- (6) 厚生労働省が各都道府県の第9期介護保険事業計画に基づいて発表した介護職員の需給見通しでは、2026年度に25万人、2040年度57万人の不足が見込まれています。昨年12月に同省が示した「介護職員数の推移」では、2023年10月1日時点の介護職員数は212.6万人（前年比▲2.8万人）と、介護保険制度創設以来初の減少に転じました。ヘルパーの不足も深刻で、2023年度の有効求人倍率は14倍で依然として高止まりのままであり、若い層の参入がほとんどなく不足と高齢化が進行しています。単に事業所の継続にとどまらず、訪問介護そのものの存続の危機、ひいては「介護崩壊」の危機に直面しています。

- (7) 今年 3 月 18 日の社会保障審議会・介護給付費分科会で報告された「介護従事者処遇状況等調査結果のポイント」によれば、月給・常勤の介護職員の平均給与額（一時金等含む）について 2023 年度と 2024 年度を比較すると 13,960 円の増（+4.3%）となったものの、3 月 24 日の同分科会の賃金構造基本統計調査資料では、全産業平均との月額給与差について 2023 年度 6.9 万円に対し 2024 年度 8.3 万円と、格差が拡大する結果となりました。
- (8) 制度による処遇改善対象外となっている介護支援専門員（以下；ケアマネジャー）をめぐっては、この間「ケアマネジメントに係る諸課題に関する検討会」が開催され、「ケアマネジャーの業務のあり方や人材確保・定着支援、法定研修のあり方、ケアマネジメントの質の向上に向けた取り組みの促進」について中間整理がなされました。法定業務以外の業務、いわゆるシャドーワークについては「地域課題として市町村主体で協議を」と自治体や関係者に責任を丸投げした形です。今年 2 月 27 日には保険外サービスの振興をめざす「介護関連サービス事業協会」が、介護系大手企業を中心に設立されました。さらに財務省は「ケアマネジャーが担ってきた法定外業務を保険外サービスに位置付けることで、（ケアマネジャーの）収入増や負担軽減が可能となる」「民間事業者等との連携を推進し、報酬上のインセンティブ付けも検討すべき」と提言しました。ケアマネジャーの処遇改善と業務のあり方を混同させ、公的給付である介護保険サービスの縮小・後退が危惧されるもので、注視していく必要があります。
- (9) 厚生労働省は、次期介護保険制度改定に向けた審議会や 2040 年のサービス提供体制を見据えた検討会を立ち上げ、すでに議論を開始しています。次期改定に向けては「利用料 2 割負担の対象拡大」「ケアプランの有料化」「要介護 1・2 の生活援助等の総合事業への移行」等について、2025 年 12 月の審議会でのとりまとめ、2026 年度通常国会への法案提出というスケジュール想定です。さらに今年 4 月 23 日の財政制度等審議会・財政制度分科会では、「給付費膨張に歯止めを」「報酬 1% 引き下げで 1420 億円抑制可能」「介護分野にばかり人材が集中するのは適切ではない、選ばれる職場づくりを」「（訪問介護について）全国一律の報酬引き上げではなく、まずは既存施策の活用」などの考えが示されました。介護事業者や利用者の困難にまったく目を向けない姿勢であることは明らかです。
- (10) 昨年 12 月 2 日、健康保険証の新規発行および再発行が廃止されました。政府は医療保険証を廃止し、取得は任意であるはずのマイナカードとの一本化を強行しようとしています。介護保険証についても、なし崩し的に紙の保険証が廃止されていく危険性があります。

## II. 法人の重点課題と到達点

### 1. 経営改善に全職員が参画し、必要な利益の獲得に注力する課題について

- (1) 2024 年度は、前年度の厳しい経営到達を踏まえ、なんとしても必要利益を獲得することを最重点に予算を策定し、週報や経営ニュース、法人管理者会議等での月次決算評価・予算差異分析をすすめる全役職員で奮闘し経営改善にとりくみました。特に重点としていた「特別養護老人ホームいきいき八田」については、2023 年度第 4 四半期に経営改善に向けたとりくみを一致団結してすすめることを意思統一し、毎週の入退所確認会議や毎月の職場会議で経営の到達状況を共有し、入退院・入退所の動向に合わせ対策を実行しました。結果、介護現場の経営に対する意識と受け入れ力量の向上、介護・看護・相談員の連携による入退院・入退所調整の円滑化、入院空床のショートステイへの活用がすすみ、最大の課題であった空床削減、特に入退所ロス（退所後次の入所者受け入れまでの空床）を延 430 日（前年差▲822 日、前年比 34.3%）に抑え、9 月以降稼働率目標の 95%を達成し、前年差+20,000 千円の収益改善を図ることができました。

しかし、法人全体の 2024 年度決算における経常増減差額は▲16,739 千円、予算差▲25,007 千円、前年差▲9,162 千円の大幅な赤字決算・予算未達成となりました。主には、コロナ禍を背景とした利用者減少を回復できず、かつ利用者の重度化や在宅介護の困難さから入院や施設入所が増加した

こと、8月の「特別養護老人ホームいきいき八田」「いきいき八田ショートステイ」及び10月の「いきいき八田デイサービス」「いきいき箱崎デイサービス」でのクラスター発生により一時的に稼働の制限を受けたことが要因となり、サービス活動収益がほぼすべての事業所で予算乖離・減収となったことによるものです。

サービス活動収益は958,956千円、予算比96.6%▲34,058千円の大幅未達、前年比99.2%▲7,932千円減収となりました。サービス活動費用は975,848千円、予算比99.2%▲7,862千円の減、前年比100.2%2,032千円の増となりました。

2024年度の決算概要							
単位:千円(千円未満四捨五入)	実績	予算	予算差	予算比	前年実績	前年差	前年比
サービス活動収益計	958,956	993,015	▲ 34,059	96.6%	966,889	▲ 7,933	99.2%
人件費	665,452	675,162	▲ 9,710	98.6%	666,746	▲ 1,294	99.8%
事業費	142,582	145,427	▲ 2,845	98.0%	133,117	9,465	107.1%
事務費	128,541	125,961	2,580	102.0%	128,891	▲ 350	99.7%
利用者負担軽減額	498	556	▲ 58	89.6%	513	▲ 15	97.1%
減価償却費	37,769	36,604	1,165	103.2%	43,557	▲ 5,788	86.7%
サービス活動費用計	975,848	983,710	▲ 7,862	99.2%	973,815	2,033	100.2%
サービス活動外収益計	1,373	528	845	260.0%	694	679	197.8%
サービス活動外費用計	1,221	1,565	▲ 344	78.0%	1,345	▲ 124	90.8%
経常増減差額	▲ 16,740	8,267	▲ 25,007	-202.5%	▲ 7,577	▲ 9,163	220.9%

- (2) 2024年度介護報酬改定は、1.59%のプラス改定となりました。介護分野からの人材流出が進む中、担い手確保のために処遇改善が重視されましたが、全産業平均給与と月額約8.3万円の差を解消するには程遠い内容です。また「処遇改善加算」は賃上げ原資として使途が限定されているため、それだけでは安定的な事業運営にはつながりません。ちどり福祉会の影響試算では、施設系サービスの基本報酬が2~3%の増収となったものの、その他の事業では報酬の増減がほとんどなく、デイサービスでは加算の引き下げ・類下げや総合事業の加算の一部廃止などにより実質的にはマイナスとなりました。施設系サービスでは新たな加算が設定され、積極的に検討・取得をすすめましたが、月単位でわずかな金額の加算が多い現状です。
- (3) 2024年度介護報酬改定で特養の宿直配置義務が「置かないことができる」に緩和されました。「特別養護老人ホームいきいき八田」「特別養護老人ホームいきいき箱崎」では設備の導入や業務の見直しを行い、宿直職員の配置の見直しを行いました。

## 2. 活動の原点となる職場づくり、活動を担う職員の確保・育成の課題について

- (1) 2000年の介護保険制度創設以来、増加を続けてきた介護職員数が2023年度に初めて減少するなど、介護分野の人材確保は大変な困難を極めています。新卒職員確保対策として養成校との連携により27年卒留学生の受け入れをすすめています。26年卒の確保には至っていません。中途採用では、初任者研修資格を所持するも実務経験がない職員を採用し育成をすすめました。実習生の受け入れ（介護福祉士、実務者研修、社会福祉士等）やハローワーク・福岡県社会福祉協議会等の就職説明会・就職フェアへ参加しましたが、なかなか確保に結びつきません。

退職補充は有料転職サイト、派遣会社からの採用をすすめました。人材確保・利用者確保の広報・宣伝対策として、地域貢献活動を通じた法人・事業所の認知度の向上、Googleマップのビジネスプロフィールの活用、ホームページの見直し・スマートフォン専用ページ開設をすすめました。

## 2024 年度入職者の状況

### 2024年度入職者

2024年度			2023年度		
雇用区分			雇用区分		
常勤	14	58% ↗	常勤	11	50%
短時間	9	38% ↗	短時間	8	36%
嘱託	1	4% ↘	嘱託	3	14%
	24	100%		22	100%
職種別			職種別		
介護職員	13	54% ↗	介護職員	9	41%
看護	8	33% ↗	看護	3	14%
リハ	0	0% ↘	リハ	1	5%
その他	3	13% ↘	その他	9	41%
計	24	100%	計	22	100%

2024年度			2023年度		
入職者経路			入職者経路		
新卒	0	0% ↘	新卒	3	14%
職員紹介	9	38% ↗	職員紹介	3	14%
ハローワーク	7	29% ↗	ハローワーク	6	27%
ネット	0	0% ↘	ネット	2	9%
有料広告	6	25% ↘	有料広告	7	32%
業者紹介	2	8% ↗	業者紹介	1	5%
	24	100%		22	100%

## 2024 年度退職者の状況

2024年度退職者（全体）			2023年度		
勤務年数			勤務年数		
1年未満	4	16% ↘	1年未満	7	37%
3年未満	3	12% ↗	3年未満	2	11%
5年未満	6	24% ↗	5年未満	0	0%
5年以上	12	48% ↘	5年以上	10	53%
	25	100%		19	100%
職種別			職種別		
介護職員	14	56% ↗	介護職員	9	47%
看護	6	24% ↗	看護	3	16%
リハ	0	0% ↘	リハ	1	5%
事務・その他	5	20% ↘	事務・その他	6	32%
	25	100%		19	100%
雇用区分別			雇用区分別		
常勤	19	76% ↗	常勤	10	53%
短時間	6	24% ↘	短時間	8	42%
嘱託	0	0% ↘	嘱託	1	5%
	25	100%		19	100%

2024年度退職者（常勤）			2023年度		
勤務年数			勤務年数		
1年未満	3	16% ↘	1年未満	3	30%
3年未満	1	5% ↘	3年未満	1	10%
5年未満	4	21% ↗	5年未満	0	0%
5年以上	11	58% ↘	5年以上	6	60%
	19	100%		10	100%
職種			職種		
介護職員	11	58% ↗	介護職員	5	50%
看護	5	26% ↘	看護	3	30%
リハ	0	0% ↘	リハ	1	10%
事務・その他	3	16% ↗	事務・その他	1	10%
	19	100%		10	100%
退職率			退職率		
常勤	19	15.6% ↗	常勤	10	7.9%

(2) 労働安全衛生委員会を中心に職場環境巡視と改善のとりくみをすすめました。12月の全職員会議に産業医を招き、「こころの健康と不調の予防・セルフケア」について学習し、メンタルヘルス不調の予防に努めました。引き続き各職場で腰痛予防体操を行い、腰痛の発生は1件（前年比▲4件）にとどまりました。ほか労災適用は通勤災害1件、その他1件を含め合計3件となりました。（詳細は各種委員会の2024年度総括を参照）。

(3) 2024年度から一部の事業に義務化された生産性向上のとりくみとして、ちどり福祉会では業務改善推進委員会を立ち上げ、介護の質の向上と働きやすい職場を追求するための業務の見直し・業務効率化のとりくみをすすめました。実態把握のための職員アンケート、課題の洗い出し、課題に対する具体的実践を行いました（詳細は各種委員会の2024年度総括を参照）。

(4) 事業所別月平均の時間外労働時間数では、八田特養で大幅に増加（前年比53時間増、156.6%）しました。常勤職員退職後の補充採用が円滑に進まず休日出勤を組まざるを得なかったこと、新型コロナウイルスクラスター対応等が影響しました。常勤職員の年休取得率は法人全体で平均38.6%（前年比100.5%）、事業所によっては50%超えや50%近くまで到達した事業所もありましたが、低いところは本部28.5%、八田特養30.4%、箱崎デイ35.5%、箱崎特養41.7%でした。リフレッシュルーム（臨床心理士との面談）を活用し、気になる職員の早めのメンタルケアを実施しました。

事業所別 月平均の時間外労働時間数（2024年3月16日～2025年3月15日） 単位 時間：分

事業所	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年比	増減
本部	0:32	0:49	2:02	1:52	91.8%	-0:10
特別養護老人ホームいきいき八田	60:22	97:18	94:42	148:19	156.6%	53:47
いきいき八田デイサービス	4:43	5:27	8:01	7:49	97.5%	-0:12
いきいき八田デイサービスゆとり	10:28	4:35	5:22	7:41	143.2%	2:19
福岡市東第6地域包括支援センター	2:12	0:49	3:47	6:03	159.9%	2:16
特別養護老人ホームいきいき箱崎	51:16	54:10	60:40	59:47	98.5%	-0:53
小規模多機能ホームのどか	11:03	11:56	17:46	16:56	95.3%	-0:50
いきいき箱崎デイサービス	43:19	65:26	59:33	34:39	58.2%	-24:54
いきいきハウス箱崎	2:35	1:52	1:55	1:44	90.4%	-0:11

事業所別 有給休暇取得日数・取得率の推移（常勤職員；2024年3月16日～2025年3月15日）

事業所		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年比	増減
本部	日数	8.0	15.5	24.5	25.5	104.1%	1
	取得率	11.6%	19.4%	31.0%	28.5%	91.9%	-2.5%
特別養護老人ホームいきいき八田	日数	483.5	537.5	564.0	534.5	94.8%	-29.5
	取得率	28.2%	30.4%	30.7%	30.4%	99.0%	-0.3%
いきいき八田デイサービス	日数	122.0	194.5	162.0	175.0	108.0%	13
	取得率	36.6%	54.9%	48.2%	49.6%	102.9%	1.4%
いきいき八田デイサービスゆとり	日数	56.0	53.0	32.0	31.0	96.9%	-1
	取得率	67.9%	70.7%	52.5%	47.3%	90.1%	-5.2%
福岡市東第6地域包括支援センター	日数	129.5	163.5	162.5	153.0	94.2%	-9.5
	取得率	40.2%	50.3%	52.8%	58.3%	110.4%	5.5%
特別養護老人ホームいきいき箱崎	日数	267.0	365.0	308.0	313.5	101.8%	5.5
	取得率	34.7%	46.2%	41.7%	41.7%	100.0%	0.0%
小規模多機能ホームのどか	日数	174.0	159.0	171.0	196.0	114.6%	25
	取得率	52.4%	43.9%	43.0%	48.9%	113.7%	5.9%
いきいき箱崎デイサービス	日数	111.5	131.5	151.0	133.0	88.1%	-18
	取得率	31.9%	36.5%	43.0%	35.5%	82.6%	-7.5%
いきいきハウス箱崎	日数	18.5	23.0	18.5	17.0	91.9%	-1.5
	取得率	47.4%	59.0%	52.9%	47.9%	90.5%	-5.0%
法人全体	日数	1370.0	1642.5	1593.5	1578.5	99.1%	-15
	取得率	34.2%	39.5%	38.4%	38.6%	100.5%	0.2%

- (5) 法人全体で全日本民医連第46回定期総会方針の読了と学習をすすめる、主任以上17名全員が読了完了、あわせてDVD視聴と意見交換の学習会を延べ43回開催、延べ138名の職員が参加しました。戦争と平和、医療・介護、次世代のために私たちが何をすべきか、情勢と今後の運動課題について深めました。
- (6) 制度教育として課長以上、主任・リーダー、在籍5年目以上職員の階層別研修を実施しました。課長以上、主任・リーダー計30名は心理的安全性、5年目以上49名は中堅として後輩職員にどうかかわるか等、職場・職員間の円滑なコミュニケーションをすすめる人間関係づくりについて学習し、職場づくりに活用し始めました。卒後2～4年目研修、中途採用職員オリエンテーション研修を実施しました。
- (7) 幹部養成としての出向研修を行いました。1名が福岡医療団での研修を8月に終え帰任、理事・施設長の交代を評議員会及び理事会で確認し、10月から新たに1名の出向研修を開始しました。前年度に修了した全日本民医連主催の法人介護・福祉責任者フォローアップ研修会に参加しました。
- (8) 職員の処遇改善、スキルアップ支援にとりくみました。処遇改善加算の一本化に伴い、手当の整理や新設等を行い、職員の処遇改善を図りました。また、育児の為の時短勤務の対象拡大・短時間職員の慶弔休暇の新設を行いました。他、ケアマネ更新研修や介護福祉士実務者研修の費用補助の対象を拡大しました。

### 3. 個人の尊厳と人権、安心と安全に配慮した質の高い介護活動実践の課題について

- (1) 各事業所で尊厳と人権・倫理的課題に関する学習と実践にとりくみました。福岡・佐賀民医連（以下；県連）主催の旧優生保護法学習会へ課長以上6名が参加し、当該法の本質と原因、人権侵害と倫理的課題について学びを深めました。「特別養護老人ホームいきいき八田」「いきいき八田ショートステイ」「特別養護老人ホームいきいき箱崎」「いきいき箱崎ショートステイ」では、職場会議において個人の尊厳に関する学習をすすめました。
- (2) 「特別養護老人ホームいきいき八田」は看取り介護の実践、その他の事業所では施設や在宅での終末期を支援するケアを実践しました。「小規模多機能ホームのどか」はユマニチュード認証制度のブロンズ認証取得に向けたとりくみを開始し、あわせて認知症ケアの質の向上と上位区分加算取得に向け、認知症介護実践リーダー研修を受講しました。「いきいき八田デイサービスゆとり」は認知症対応型通所介護事業所として、利用者とその家族に寄り添ったケアや相談援助を実践しました。
- (3) 利用者・入所者の重度化と医療依存度が増す中、食事の体調急変事例、転倒・骨折事例、新型コロナウイルス感染症罹患・入院後の逝去事例などが発生しました。管理者を中心に発生時の対応、家族等への真摯な対応に努めました。利用者・家族と日常からの密なコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めました。各拠点で事故防止・安全に関する法定研修を行うとともに、「特別養護老人ホームいきいき八田」「いきいき八田ショートステイ」では介護職員向けに体調急変時の対応研修を行いました。
- (4) 苦情解決委員会は12月のみ開催し、6月及び9月、3月は苦情等事例の発生がなかったため開催しませんでした。年間の苦情等件数は、新型コロナウイルス感染症罹患に関する説明不足等に関する苦情、看取り介護中の状態変化に応じた夜間面会対応に関する苦情、右前頭部の傷の発生に関する苦情の計3件でした。いずれも真摯に対応し、円滑な解決に努めました。昨年4月に「ちどり福祉会における苦情解決の仕組み」に関する全職員研修を実施し、第三者委員や解決手順、苦情になりやすい要因、初期対応のポイント等を学習・共有しました。
- (5) 2024年度介護報酬改定対応として、口腔ケアに関するとりくみを推進しました。「特別養護老人ホームいきいき八田」では、たたらリハビリテーション病院歯科の歯科医師・歯科衛生士と開催する歯科連絡会議において、誤嚥性肺炎リスク評価を毎月実施しました。歯科医師・歯科衛生士の指導・助言をもとに現場で口腔ケアを実践し、誤嚥性肺炎による入院が減少した（2023年度9名→2024年度4名）という成果を得ました。人員配置の課題で加算算定には至っていませんが、介護の質の向上が経営向上につながる実感をもてました。
- (6) 新型コロナ、季節性インフルエンザ等の感染対策に留意しながら、食事づくりや生花サークル等の行事やレクリエーション活動に旺盛にとりくみました。面会についても予約制を廃止し、1回あたりの時間を拡大するなど、制限緩和に向けとりくみました。居宅サービスでは一部傾聴ボランティアを受け入れ、利用者のQOL向上に資する活動を再開しました。

### 4. 医療との連携、地域との連携強化、無差別・平等の地域包括ケア実践の課題について

- (1) 福岡医療団や福岡保健企画、NPO 福岡地域福祉サービス協会等グループ法人との協力・連携を図りました。全国的に医療・介護の経営が厳しさを増しており、利用者確保や経営向上に資する医療・介護の一体的な運営・展開に向けたグループ法人全体としての事業構想の協議が必要です。千鳥橋病院と「特別養護老人ホームいきいき八田」「特別養護老人ホームいきいき箱崎」の三者による連携会議を新たに開始し、入退院にかかる連携を強化しました。たたらリハビリテーション病院師長会議・管理会へ入退院連携強化の協力要請を行いました。千鳥橋病院の新卒医師オリエンテーション研修、退院支援看護師の見学研修に協力しました。
- (2) 行政や社会福祉協議会、地域の事業所と協力・連携し、様々な地域貢献活動にとりくみました。八田拠点では、たたら地域ふくしネットやひがしかぜの会を通じた事業所ネットワーク活動、八田健康カフェすこやか、しろうおカフェおれんじ（認知症カフェ）、八田校区ランタン祭りのランタン

製作、「いきいき八田デイサービス」は利用者と育てた野菜をこども食堂へ寄付、公民館作品展への作品展示などにとりくみました。箱崎拠点では、東区小規模多機能連絡会やほこうまネットを通じた事業所ネットワーク活動、貝塚サロン講師派遣、はごさきカフェや箱崎校区防災訓練への参加等にとりくみました。法人ではふくおかライフレスキュー事業（社会福祉法人の連携による生活困窮者支援事業）に継続して参加し、地域の社会福祉法人と連携を図りました。

- (3) 認知症ケア向上と並行して、両拠点ともに認知症に関する知識等の啓発、まちづくりにとりくみました。各校区での認知症サポーター養成講座やユマニチュード講座の講師活動、認知症声かけ訓練や東区 RUN 伴の企画・実施に旺盛に参加し、地域や行政からの信頼を得ています。
- (4) 「福岡市東第 6 地域包括支援センター」は、各校区団体の諸会議への参加や関係機関への啓発活動を通じて、地域課題の解決に向けた実践を展開しました。青葉校区・八田校区での地域ケア会議、多々良校区蒲田市営住宅管理組合との団地住民支援に向けた懇談など、地域包括ケアのまちづくりに向け法人内事業所や関係機関と連携しながらとりくみをすすめました。

## 5. 災害・感染症への対応と事業を継続できる法人・事業所づくりの課題について

- (1) 5 類感染症となった新型コロナウイルス感染症は変わらず猛威を奮い、ちどり福祉会の事業所もたびたびクラスターに見舞われましたが、職員の懸命なケアと協力医療機関との連携により比較的早期に収束させました。11 月末から季節性インフルエンザが急増し 12 月中旬には警報発令となったため、職員への注意喚起と施設の面会時間縮小を実施し、施設・事業所内での感染及び拡大は防止しました。協力医療機関の感染管理認定看護師の協力を得て、八田拠点感染予防委員会にて感染症対策向上のための学習会に 5 回シリーズでとりくみました。
- (2) BCP（事業継続計画）に則り、八田拠点・箱崎拠点で自然災害及び感染・クラスター発生を想定した研修・訓練を実施し、計画や発生時の対応手順等を確認しました。

## 6. 憲法と平和・社会保障、地球環境を守る運動、介護ウェーブの課題について

- (1) 全日本民医連主催の 2024 年度介護報酬改定対応検討会や介護・福祉責任者会議、社会福祉法人専務・事務局長・施設長会議に参加しました。九州・沖縄地方協議会では介護部門責任者会議や社会福祉法人責任者会議、介護事業所管理運営セミナー、社会福祉法人学習交流集會に参加しました。県連方針・理事会に結集し、幹部研修や学術・運動交流集會などの各種研修会や委員会活動に参加しました。
- (2) 21 世紀・老人福祉の向上を目指す施設連絡会（21・老福連）監事としての役割を果たし、12 月の職員研究交流集會に分科会座長、発表者として 3 名が参加しました。福岡市老人福祉施設協議会では東ブロック相談員会議や施設長会議に参加しました。憲法が生きる福祉社会をめざす福岡共同会議（福祉共同会議）に役員として参加し、7 月の総会で「2024 年度介護報酬改定の問題点」を報告、問題提起を行いました。
- (3) 介護ウェーブのとりくみをすすめました。職員による署名推進のほか、宣伝行動を 3 回実施しました。9 月は県連による「医師・看護師・介護職ふやせ！大宣伝行動」に 7 名が参加、11 月介護の日には宣伝行動をちどり福祉会が主催、法人から 10 名ほかグループ法人や県連事務局も参加し発言・署名活動にとりくみました。3 月 8 日県連主催介護のつどい前に博多駅前での宣伝行動を企画し、法人内 4 名他法人 18 名の計 22 名が参加しました。介護保険制度や新型コロナ問題の改善を求め、県連や福岡市社保協、福岡医療団グループ法人などと連携して行政との懇談にとりくみました。
- (4) 地域の拠り所として福祉・介護をめぐる情報の発信・啓発にとりくみました。「特別養護老人ホームいきいき八田」を事務局とするたたら地域ふくしネットで 2 月に「ヤングケアラー学習会」を開催、民生委員などの地域団体役員や医療・介護・障がい福祉事業所から 25 名が参加し、地域におけるヤングケアラーの実情や支援のあり方について学びを深めました。
- (5) 憲法・平和・社保の課題では、法人平和・社保委員会を中心に職員による署名活動にとりくみま

した。

(6) SDGsが掲げる17の目標を参考に、事業活動を通じて諸課題にとりくみました。7エネルギーの目標に対しては「いきいき八田デイサービス」で引き続きコンビニエンスストアと提携し、新聞紙を再利用したエコバッグ製作にとりくみ、手に取った地域住民から感謝の手紙が届くなど嬉しい成果がありました。11住み続けられるまちづくりの目標に対しては、各事業所の地域貢献活動を通じて「認知症になっても安心して住み続けられる」「地域まるごと健康」のまちづくりに、地域住民や近隣の医療・介護事業所とともにとりくみました。

### III. 組織の概況

(1) 役員（理事・監事）の状況

①理事・監事の定数と在任数

定数と在任数	理事 定数6名・在任数6名	監事 定数2名・在任数2名
--------	---------------	---------------

②理事・監事の任期：2023年6月17日～2024年会計年度終了後の定時評議員会終結時まで

役職	氏名	現就任年月日	職業・経歴	役員の資格等	
理事	理事長	熊谷 芳夫	2023年6月17日	公益社団法人福岡医療団 医師	事業区域福祉精通者
	業務執行理事	川添 大介	2023年6月17日	特別養護老人ホームいきいき八田 施設長	施設管理者
	理事	川本 正己	2023年6月17日	社会福祉法人ちどり福祉会 法人事務長	社会福祉事業経営有識者
	理事	和田峯 ゆき江	2023年6月17日	元 社会福祉法人ちどり福祉会 事務局長	社会福祉事業経営有識者
	理事	牛嶋 慶輔	2023年6月17日	社会福祉法人ちどり福祉会 事務局長	社会福祉事業経営有識者
	理事	門司 純	2024年10月16日	特別養護老人ホームいきいき箱崎 施設長	施設管理者
監事	監事	成富 学	2023年6月17日	元 親仁会職員	財務管理有識者
	監事	山本 明美	2023年6月17日	元 特別養護老人ホームいきいき八田 施設長	社会福祉事業有識者

③理事会の開催状況、決議事項等

開催年月日 招集通知日	出席者数 ／理事数	出席者数 ／監事数	議 題
2024年4月20日 2024年4月8日	6/6	2/2	①2月決算報告 ②特定処遇改善手当(4月支給分)
2024年5月18日 2024年5月8日	6/6	2/2	①2023年度事業活動報告 ②2023年度決算・監事監査報告 ③2024年度定時評議員会招集 ④特定処遇改善手当(5月支給分) ⑤処遇改善支援手当(5月支給分)
2024年6月15日 2024年6月6日	6/6	2/2	①4月決算報告 ②2024年度最終予算 ③処遇改善加算一本化に対応する給与規程の改定 ④春闘二次回答 ⑤短時間雇用職員就業規則の改定
2024年7月20日 2024年7月10日	6/6	0/2	①5月決算報告 ②育児休業規程の改定
2024年8月17日 2024年8月8日	6/6	2/2	①6月決算報告 ②理事の変更 ③評議員選任・解任委員の変更 ④評議員会の招集 ⑤八田デイ・ゆとりの給食業者の変更 ⑥八田デイ・ゆとりの食材料費の変更
2024年9月21日 2024年9月9日	5/6	2/2	①7月決算報告 ②施設長の交代 ③最低賃金改定への対応 ④就業規則の改定
2024年10月19日 2024年10月10日	6/6	2/2	①8月決算報告
2024年11月16日 2024年11月7日	6/6	2/2	①9月決算報告 ②評議員会の招集 ③秋闘回答 ④火災保険料の更新
2024年12月21日 2024年12月6日	5/6	2/2	①10月決算報告 ②2025年度予算編成方針 ②火災保険料の更新 ④預かり金規程の改定
2025年1月18日 2025年1月10日	6/6	1/2	①11月決算報告 ②いきいきハウス箱崎共益費の改定 ③育児・介護休業規程の改定
2025年2月15日 2025年2月6日	6/6	2/2	①12月決算報告 ②評議員会の招集
2025年3月15日 2025年3月7日	6/6	2/2	①1月決算報告 ②2025年度事業計画及び収支予算 ③春闘回答 ④オムツ会社選定

(2) 評議員の状況

①評議員の定数と在任数

定数と在任数	評議員 定数7名・在任数7名
--------	----------------

②評議員の任期：2021年6月19日～2024年会計年度終了後の定時評議員会終結時まで

役職	氏名	現就任年月日	職業・経歴	役員の資格等
評議員	片山 公繼	2021年6月19日	元 福岡地区労連 副議長	社会福祉事業経営有識者
評議員	井上 滋子	2021年6月19日	弁護士	社会福祉法人に関する弁護士
評議員	小池 多恵子	2021年6月19日	介護支援専門員	事業区域福祉精通者
評議員	杉本 芳彦	2021年6月19日	公益社団法人福岡医療団 監事	社会福祉事業経営有識者
評議員	芹川 和廣	2021年6月19日	社会福祉法人紅葉会 評議員	社会福祉事業経営有識者
評議員	平田 孝	2021年6月19日	元 福岡医療団理事・薬剤師 ふくおか健康友の会 会長	社会福祉事業経営有識者
評議員	富山 克彦	2022年8月1日	NPO法人福岡地域福祉サービス協会 副理事長	社会福祉事業経営有識者

③評議員会の開催状況、決議事項等

開催年月日 招集通知日	開催を決議した 理事会の日	出席者数 /評議員数	出席者数 /監事数	議 題
2024年6月15日 2024年5月23日	5月18日	6/7	2/2	①2023年度事業活動報告 ②2023年度決算・監事監査報告 ③2024年度最終予算
2024年9月21日 2024年8月26日	8月17日	6/7	2/2	①理事の変更
2024年12月21日 2024年12月2日	11月16日	7/7	2/2	なし(報告事項のみ)
2025年3月15日 2025年3月4日	2月15日	7/7	2/2	①2025年度事業計画及び収支予算

(3) 施設・事業所の状況

施設・事業所名	住所	事業所番号	事業開始日
特別養護老人ホームいきいき八田 (ショートステイ含む)	福岡市東区八田1-4-15	4070801420	2003年10月15日
特別養護老人ホームいきいき八田 (地域密着型・ユニット型)	福岡市東区八田1-4-15	4090800337	2015年10月15日
いきいき八田ショートステイ (空床利用型・ユニット型)	福岡市東区八田1-4-15	4070804473	2015年10月15日
いきいき八田デイサービス	福岡市東区八田1-4-15	4070801438	2003年10月15日
いきいき八田デイサービスゆとり	福岡市東区八田1-4-15	4090800063	2008年9月1日
福岡市東第6地域包括支援センター (介護予防支援事業所)	福岡市東区八田1-4-48	4000800112	2015年4月1日
特別養護老人ホームいきいき箱崎	福岡市東区箱崎6-18-7	4090800139	2011年5月1日
いきいき箱崎ショートステイ	福岡市東区箱崎6-18-7	4070802956	2011年5月1日
小規模多機能ホームのどか	福岡市東区箱崎6-18-7	4090800121	2011年5月1日
いきいき箱崎デイサービス	福岡市東区箱崎6-18-9	4070803749	2013年9月1日
サービス付き高齢者向け住宅いきいきハウス箱崎	福岡市東区箱崎6-18-9	なし	2013年9月1日

(4) 施設基準・加算等一覧 (2025年3月31日現在)

①特別養護老人ホームいきいき八田 (介護老人福祉施設、ユニット型地域密着型介護老人福祉施設)

- ・日常生活継続支援加算 I
- ・日常生活継続支援加算 II (ユニット型地域密着型のみ)
- ・看護体制加算 I
- ・看護体制加算 II
- ・夜勤職員配置加算 I
- ・夜勤職員配置加算 II (ユニット型地域密着型のみ)
- ・準ユニットケア加算
- ・個別機能訓練加算 I
- ・個別機能訓練加算 II (LIFE)
- ・精神科医療養指導加算
- ・外泊時費用
- ・初期加算
- ・退所時栄養情報連携加算
- ・退所時情報提供加算
- ・協力医療機関連携加算 1
- ・療養食加算
- ・看取り介護加算 I
- ・褥瘡マネジメント加算 I (LIFE)
- ・褥瘡マネジメント加算 II (LIFE)
- ・科学的介護推進体制加算 II (LIFE)
- ・安全対策体制加算
- ・高齢者施設等感染対策向上加算 II
- ・介護職員等処遇改善加算 I

②いきいき八田ショートステイ (併設型短期入所生活介護、空床利用型短期入所生活介護)

- ・機能訓練体制加算
- ・看護体制加算 I
- ・看護体制加算 II
- ・夜勤職員配置加算 I
- ・送迎加算
- ・口腔連携強化加算
- ・サービス提供体制強化加算 II
- ・介護職員等処遇改善加算 I

③いきいき八田デイサービス (通常規模型通所介護、総合事業)

- ・7時間以上8時間未満
- ・入浴介助加算 I
- ・個別機能訓練加算 I イ
- ・個別機能訓練加算 I ロ
- ・個別機能訓練加算 II (LIFE)
- ・ADL維持等加算 I (LIFE)
- ・科学的介護推進体制加算 (LIFE)
- ・サービス提供体制強化加算 I

- ・介護職員等処遇改善加算 I
- ④いきいき八田デイサービスゆとり（認知症対応型通所介護、介護予防認知症対応型通所介護）
- ・7時間以上8時間未満
  - ・入浴介助加算 I
  - ・個別機能訓練加算 I
  - ・科学的介護推進体制加算（LIFE）
  - ・サービス提供体制強化加算 II
  - ・介護職員等処遇改善加算 I
- ⑤福岡市東第6地域包括支援センター（介護予防支援）
- ・福岡市受託事業
  - ・初回加算
  - ・委託連携加算
- ⑥特別養護老人ホームいきいき箱崎（ユニット型地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護）
- ・日常生活継続支援加算 II
  - ・看護体制加算 I
  - ・看護体制加算 II
  - ・夜勤職員配置加算 II
  - ・個別機能訓練加算 I
  - ・個別機能訓練加算 II（LIFE）
  - ・精神科医療養指導加算
  - ・外泊時費用
  - ・初期加算
  - ・退所時栄養情報連携加算
  - ・退所時情報提供加算
  - ・協力医療機関連携加算 1
  - ・療養食加算
  - ・褥瘡マネジメント加算 I（LIFE）
  - ・褥瘡マネジメント加算 II（LIFE）
  - ・科学的介護推進体制加算 II（LIFE）
  - ・安全対策体制加算
  - ・高齢者施設等感染対策向上加算 II
  - ・介護職員等処遇改善加算 I
- ⑦いきいき箱崎ショートステイ（併設型ユニット型短期入所生活介護、併設型ユニット型介護予防短期入所生活介護）
- ・機能訓練体制加算
  - ・看護体制加算 II
  - ・夜勤職員配置加算 II
  - ・送迎加算
  - ・緊急短期入所受入加算
  - ・口腔連携強化加算
  - ・サービス提供体制強化加算 II

- ・介護職員等処遇改善加算 I

⑧小規模多機能ホームのどか（小規模多機能型居宅介護）

- ・初期加算
- ・認知症加算Ⅲ
- ・認知症加算Ⅳ
- ・看護職員配置加算Ⅱ
- ・訪問体制強化加算
- ・総合マネジメント体制強化加算Ⅰ
- ・科学的介護推進体制加算
- ・サービス提供体制強化加算Ⅰ
- ・介護職員等処遇改善加算Ⅰ

⑨いきいき箱崎デイサービス（通常規模型通所介護、総合事業）

- ・7時間以上8時間未満
- ・入浴介助加算Ⅰ
- ・個別機能訓練加算Ⅰイ
- ・個別機能訓練加算Ⅰロ
- ・個別機能訓練加算Ⅱ（LIFE）
- ・ADL維持等加算Ⅰ（LIFE）
- ・科学的介護推進体制加算（LIFE）
- ・サービス提供体制強化加算Ⅰ
- ・介護職員等処遇改善加算Ⅰ

⑩いきいきハウス箱崎

- ・サービス付き高齢者向け住宅（住宅型有料老人ホーム）

【各事業所の2024年度事業活動報告及び法人・拠点・事業所委員会総括】 別紙参照

## 2024年度 八田拠点 事業活動総括

2024年度は特養・ショートステイの経営改善を重点に、かつデイ・ゆとりも予算達成に向けた取り組みをすすめたものの、2月までの累計経常増減差額は特養▲19,427千円、ショート▲5,013千円、デイ4,433千円、ゆとり▲434千円、包括▲2,228千円とデイ以外の事業所で達成できていない。ただ特養は下半期の稼働改善もあり、改善の兆しが見えてきた。デイ・ゆとりは在宅介護困難による入院・入所や経済情勢の影響を受け、予算差・前年差が大きくなった。特養をメインに職場環境の整備や業務の見直し・効率化の取り組みを年度末から開始した。BCPや虐待防止の基準改定による研修や訓練・シミュレーションの実施、地域貢献活動やまちづくりの取り組みを拠点全体の課題としてすすめた。

文責：川添

1. 全職員参加の経営活動【目標稼働率 95.0%】

- ・年度の平均稼働率 93.6%となり、目標まであと一步の実績となった。2月までの累計で収益予算 310,500千円に対し 306,300千円とし▲4,200千円まで到達した。経常利益の累計予算差は▲7,300千円。
- ・入所候補者を常時5名確保できなかったが、入退所確認会議を積み重ね、入退所ロスを延430日（前年差▲822日、前年比 34.3%）に抑えることができた。入院日数について協力医療機関との定例会議や連携を強化し、延1289日（前年差▲445日、前年比 74.3%）となった。
- ・年間累計で新規入所 22名、入所経路はショート長期利用 36.4%、在宅や老健・外部の医療機関等 36.4%、併設医療機関 27.2%となった。前年度と比較して、ショート長期利用が若干減少、在宅や老健・外部の医療機関等が若干増加した。
- ・部署ごとに経費節減の対策を実行し、費用削減に努めた。
- ・2024年4月から協力医療機関連携加算Ⅰ及び高齢者施設等感染対策向上加算Ⅱ、8月から退所時情報提供加算、退所時栄養情報連携加算の算定を開始した。

2. 働きやすい職場づくりと職員育成

- ・働きやすい職場づくりをすすめるため、主任・リーダー以上全員が法人制度教育の「心理的安全性」を学び、職員間コミュニケーションを円滑にするための取り組みを開始した。同様に5年目以上中堅職員についても「先輩講座」研修を実施し、後輩・同僚間のコミュニケーションや報連相について学びを深めた。
- ・法定研修や個人目標に則り施設内外・Web研修への参加を促進し、前年度以上の参加を確保できた。
- ・業務改善推進委員会での協議を通じて、2丁目が先行して洗濯や物品補充の課題を洗い出し、業務見直しの取り組みを実施した。職員の負担軽減やケアの質の向上につながる成果が確認された。
- ・労働安全衛生委員会による巡視を受け、職場環境改善に取り組んだ。腰痛及び感染症罹患による労災が2件発生した。

3. 人権と安全・安心に配慮した介護活動の実践

- ・個人の尊厳学習・倫理的課題に関する学習を主任・リーダー会議で9回、ほかユニット会議等で実施した。
- ・事故防止に取り組み、転倒による骨折は発生しなかった。苦情は新型コロナ感染及び看取り介護に関して2件発生し、真摯に解決に努めた。
- ・たたらリハビリテーション病院歯科の歯科医師・歯科衛生士と連携し、口腔機能の評価・助言等を通じて現場で実践、誤嚥性肺炎を主因とする入院の減少につながった。
- ・3名の看取り介護を実施。急激な状態低下や家族関係など困難な事例もあったが、多職種協働でやりとげた。
- ・新たなLIFEシステムに移行後のフィードバックを基に、その情報を活用したケア実践に向け、全国や地域別の入所者状況比較・施設の立ち位置等を委員会で検討した。
- ・前年度から引き続き、福岡医療団の感染管理認定看護師による感染対策基礎シリーズ学習を行い、実践的な知識・技術を身につけた。災害及び感染症BCPの研修・机上訓練を全職員会議で実施し、事象発生時対応の理解につながった。

4. 医療連携、地域連携、地域包括ケアの実践

- ・千鳥橋病院、たたらリハビリテーション病院、たたらリハビリテーション病院歯科との協力・連携を深め、健康管理や医療的ケア対応力の向上、口腔機能など介護活動の質の向上を図った。
- ・行政や社協、地域住民、関係事業所と連携し、たたら地域ふくしネットやひがしかぜの会としての活動を通じて健康カフェや認知症カフェ、認知症声かけ訓練、地域学習会などの地域貢献活動に取り組んだ。
- ・課長や介護主任・ユニットリーダー計6名が地域貢献活動に参加し、施設が地域に果たす役割等を学んだ。

5. 平和・社会保障、介護ウェーブ等の運動の取り組み

- ・管理会、主任・リーダー会議、ユニット会議等で社会保障・介護をめぐる情勢について学習をすすめた。
- ・介護ウェーブ署名・宣伝行動年1回以上の計画に対し、3回の活動を行った。
- ・県連からの署名協力要請、21・老福連による厚労省交渉への参加や職員研究交流集会への座長要請に積極的に応えた。福祉共同会議の役員会、老施協の各種会議等に参加した。

## 2024年度 いきいき八田ショートステイ 事業活動総括

文責 高山拓司

### 1. 利用者・家族が安心して過ごせる事業所作りをを目指す。

- ・長期ショート候補者は介護主任も5名ほど面接に同行しアセスメントを行い、スムーズに受け入れができるような体制作りを構築することができた。
- ・利用者の嗜好や趣味などニーズや要望を汲み取った行事を立案し実行することができた。
- ・事故は15件、ヒヤリは4件、苦情0件。転倒やずり落ちなどの事故が多いのが特徴で、大腿骨骨折し入院の事例も発生している。
- ・感染対策では、体温測定やマスク持参の声かけ、テーブル・手指消毒の徹底を継続して行い、体調不良の方がいる場合は席の位置や環境整備を行った。
- ・長期ショートから特養入所へスムーズに移行できる様、情報共有や介助面でも検討しとりくみを行った。

### 2. 働きやすい職場づくりと職員育成

- ・特養総括と同様。

### 3. 経営改善に向けた取り組みと予算達成 目標稼働率 90.0%

- ・平均稼働は88.3%にて稼働未達成、達成月は4.6.7.10.11月であった。7月は緊急ショート受け入れや入院床を活用できたが、8月に関してはコロナクラスターの影響で、キャンセルが多く発生、また、1月は長期ショートに空床があったことや特養入所に移行した関係で稼働率が低下する。全体を通して稼働はある程度一定していたが、8.1月が稼働率70%台と低迷したことが稼働低下に影響した。
- ・5月には長期ショート枠を9床から10床に増床し、延べ219日増加。
- ・新規利用は31名受け入れを行ない、長期ショートから特養入所移行は7名行う。
- ・キャンセルや空床に対して、ケアマネに追加利用を提案したり、キャンセル待ちを積極的に活用し埋めることができた。
- ・全職員参加の経営の取り組みとして、入院床活用の検討や確認を行い、36日間活用。各ユニット会議でも全職員で経営改善に取り組んでいく事を周知し、実際に入院床活用に繋がった。
- ・関連医療機関と連携し、情報交換や利用に繋がるような取り組みを行った。

### 4. 地域包括ケア・社会保障運動への取り組み

- ・特養総括と同様。

# 2024年度 いきいき八田デイサービス 事業活動総括

## 1.サービスの質を高め、選ばれる事業所を目指す

- ・送迎時間の調整や朝食後菓の確認等、家族・利用者の要望に対し柔軟な対応ができた。
- ・必要時には機能訓練指導員が自宅訪問し、動線確認や福祉用具の提案・自宅内の環境と危険個所に合わせた機能訓練を実施し、介護負担の軽減や在宅生活の継続につなげることができた。
- ・感染対策を講じながら、花見や夏祭り等の季節行事が実施できた。しばらく中止していた生花サークルも再開することができた。
- ・公民館主催の作品展への出品や、園芸で収穫した野菜を青葉公民館の「なかよしキッチン」に寄付し、利用者の社会貢献や社会参加の機会ができた。
- ・利用者が作成した新聞紙エコバックは継続してコンビニに納品することができている。エコバックを利用された方からお礼のハガキが匿名で届く等、利用者からも好評となっている。

## 2.職員育成と職場づくり

- ・職員間のコミュニケーションを円滑にし、意見や提案がしやすい環境づくりと、職員全員で協力できる体制づくりに努めた。
- ・送迎範囲を広げて新規を受け入れているため、送迎ルートの見直しを行い、送迎業務による負担や残業がないよう業務改善を図った。
- ・職員2名の育休、特養からの異動2名あったが、焦らず業務習得できるよう職員全員でフォローできるよう努めた。また、メンタル面でのフォローが必要な職員には個別面談を行うとともに、既存職員が疲弊しないよう、職員の話聞き少しでも解決できるよう改善に努めた。
- ・21老福連の職員研究交流集会で利用者と取り組む地域貢献について事例発表ができた。

## 3.利用者確保と安定した事業運営 目標 25.5名/日

- ・相談員と協力して毎月居宅への訪問営業、毎週空き情報の送付を実施し新規22件獲得できた。
- ・平均21.9名/日。稼働・予算達成できた月は1月のみだった。
- ・入院29名、中止23名発生。重度者が増えたことで入院と中止者が増加し、新規利用者数を上回っていることが予算未達成の要因となっている。  
(中止内訳：施設入所13名、逝去4名、他デイ移行4名、その他2名)
- ・水光熱費や物価高騰に伴い、コスト削減に職員全員で取り組むことができた。

## 4.地域との連携、社会保障運動への取組

- ・署名活動に職員全員で取り組むことができた。また、介護ウェブの宣伝行動に参加ができた。
- ・公民館主催の作品展に利用者の作品を出展することができた。

文責：坂本

## 2024年度 いきいき八田デイサービスゆとり事業活動総括

1. サービスの充実を図り、認知症デイの特徴あるケアを目指す。
  - ・各利用者のご様子を観察しそれぞれに合わせた手作業、ゲーム、体操を実施した。
  - ・気分変動による外出拒否の方など再訪を行いながら認知症の症状に合わせ無理なく利用に繋がる様努めた。
  - ・利用者の残存能力を活かしたレクリエーションを対応し身体を動かす時間や楽しみとなる時間を提供した。
  - ・利用時のご様子は連絡帳や送迎時に家族へ報告する他、体調面や観察での変化は電話連絡を行うなど細やかに状況伝達を心掛けた。
  - ・LIFEのフィードバック活用については十分な取り組みが出来ず課題が残った。
2. 利用者・家族に対する満足度を高めより良いサービスを行う。
  - ・家族の話しや相談をしっかりと傾聴し利用者のご様子は利用毎に連絡帳だけではなく直接お伝えすることを徹底していることで信頼性が高くご家族からの交換ノートの準備があったりお礼の言葉をケアマネジャー経由で聞くことも多い。
  - ・継続し感染予防に努め換気の他、午前・午後と検温を行いながら利用者の体調に変化があれば家族に連絡を入れ早めのお帰り等、迅速に対応した。
  - ・満足度アンケートの実施が出来ていない為、次年度に実施し事業所活動の客観的な評価を行う。
3. 職員育成と職場づくり
  - ・認知症学習会への参加を推進し認知症デイとして法人全体のケア向上に努めた。
  - ・スタッフ間で互いに援助し、気持ちを話せる環境づくり、ゆとり会議ではスタッフそれぞれの案等、発信する場を設け前進出来る職場づくりを目指した。
  - ・法人研修への参加はあったが全職会議の参加が少ない為、参加をすすめスタッフのケア向上を目指す。
4. 利用者確保と安定した運営を行う。 目標 5.5人/日
  - ・2024年度は新規9名、中止9件名となりキャンセルも多く目標を達成出来た月が一度もない状況にあった。(内訳：施設入所4名、入院(在宅復帰困難)2名、逝去1名、その他2名)
  - ・重度の認知症状が見られる方でも一般のデイサービスでも積極的に受け入れがされ、当事業所の単価が高いこともあり調整やキャンセルも多く利用者の新規獲得に難航している。
  - ・利用者の状況や家族の希望を出来る範囲で受け入れ短時間利用や振替え利用等柔軟な対応を行った。
5. 地域包括ケア・社会保障運動への取り組み
  - ・4月、10月に運営推進会議を通じ活動内容等状況を報告しながら地域に開かれた事業所を目指し取り組んだ。
  - ・介護ウェブ活動への参加は無かったが積極的に署名活動に取り組んだ。

文責：八朝

## 令和6年度 福岡市東第6地域包括支援センター 事業活動総括

### 1. 地域包括支援センターの安定した事業運営を図る為、働きやすい職場づくりを推進すると共に、計画的な業務継続並びに各委員会活動に取り組みます。

- ・総合相談の年間実件数は「622件（前年度631件）」、延件数は「3,782件（前年度3,543件）」の実績。前年度と比較すると、実件数は低下したが、延件数が増加している為、1つの事案に対して相談対応が長期化している現状が伺えた。  
地域包括支援センター事業評価については、今年度より2年に1回へ変更。今回は巡回対象が28センター、ヒヤリング対象が29センターで分類され、当センターは評価対象センターではなかった為、本庁職員の来訪によるヒヤリング及び意見交換のみが行なわれた。総合相談対応や地域ケア会議等の詳細内容を確認した他、生活困窮者に対する積極的な社会資源の活用に対しては、一定の評価を得る事が出来た。
- ・働きやすい職場づくりの取り組みとして、業務上必要な物品等の購入の他、法令遵守に基づいた介護予防支援業務の効率化を進め、比較的安定した職場体制を図る事が出来た。来年度は開設11年目を迎え、訪問移動用として活用している電動自転車の老朽化も見受けられる為、リスク管理を目的とした職場環境の整備が求められる。
- ・10月、主任ケアマネの退職により三職種1名の欠員状態が続いた為、受託費の減算を余儀なくされた。包括職員の確保については、市内のセンター全体においても大きな課題となっており、特に主任ケアマネや介護予防プランナーのなり手不足は深刻な現状にある為、法人との連携により人材確保の体制作りが求められる。

### 2. 虚弱高齢者を支える為に、多世代の方々へいきいきセンターの啓発に力を入れます。

- ・個別相談分析の結果、課題や相談件数が多い町内がある八田校区にて、ネットワーク作りをテーマにした地域ケア会議を開催。高齢者が抱える課題の他、高齢者の強みや役割について地域関係者で共有する事が出来た。
- ・多世代が高齢者に関心を持てるきっかけ作りの取り組みの一つとして、地域回覧板を活用したセンター広報紙「いきいき新聞（年1回発行）」を配布した事により、地域住民に対するいきいきセンターの周知につながった。
- ・集いの場等の積極的な紹介や同行対応を行なう事により、介護予防教室については定員以上の参加を達成。訪問型予防事業についても1件の利用があった他、多くの人を自主グループやサロン等へつなげる事が出来た。

### 3. 権利擁護を中心とした専門機関と連携しながら、支援や啓発活動等を行ないます。

- ・当センターで対応した虐待事案や処遇困難事案を分析し、そのデータを啓発活動で活用。現状を共有する事で相互の理解につながり、連携強化を図る事が出来た。
- ・福岡市成年後見推進センター及び司法書士会等の専門機関と連携し、成年後見制度の概要説明や理解を深め、制度の活用につなげる事が出来た。
- ・福岡県警のデータを基に啓発資料を更新作成。民児協定例会や地域でのサロン等の際、啓発活動として活用した。民生委員からも地域住民への掲示資料として活用したいとの声をいただき、消費者被害防止の広報活動につなげる事が出来た。
- ・圏域ケアマネ会より虐待についての講話依頼があった為、10/23、居宅介護支援事業所のケアマネージャーを対象とした勉強会を開催。従来の基礎的な内容ではなく、具体的な虐待対応の流れや実際の事例を交えて、虐待事案発生時における行政、包括、居宅ケアマネとの連携や役割分担等について共通理解を図った他、「外鍵による認知症高齢者の閉じ込め事案」について啓発を行なった。圏域内ケアマネージャー全17名中15名出席あり、虐待事案に対する感心の高さが伺え、参加者からも「実務的な内容で勉強になった。」等の声があり、有意義な勉強会とする事が出来た。

#### 4. 東第6圏域内居宅介護支援事業所のアセスメント力向上を図ります。

- ・5/16、うつ、認知症、不安定な判断能力の状態にある要介護認定者についての個別支援会議を開催。主治医、担当ケアマネ、民生委員等、地域関係者に参加いただき、現状についての共有や支援方針の明確化を図った。今後も処遇困難事案に対しては、適宜、個別支援会議を行ない、地域を巻き込んだ多職種連携に努めたい。
- ・6月～7月にかけて居宅介護支援事業所「8ヶ所」の他、1/31、社会福祉士同行の下、障がい福祉サービス相談支援事業所「1ヶ所（街の相談室ほろん）」への巡回訪問を実施。各種権利擁護啓発の他、事業所の概要、職員体制、業務内容等について共有。昨今の複合多問題事案の増加に伴い、他制度分野の専門機関や多職種連携の必要性について共通理解を図る事が出来た。
- ・5/14、青葉校区にて「閉じこもり予防」をテーマとして地域ケア会議を開催。高齢者の閉じこもりを防ぐ為の取り組み案について、地域関係者や専門職の視点に基づいた様々な意見を共有する事が出来た。この様な意見交換を積み重ねていく事で、具体的な地域課題を見出す事が出来る為、今後も話し合いの機会を作っていきたい。
- ・8/1、包括主催の圏域事例検討会では、「高齢者の痛みのコントロール」をテーマとして、「はやぶさ在宅クリニック」医師を招き、講義を含めて開催。痛みへの適切な支援が高齢者の重度化予防につながり、表面上のみならず、潜在的な部分に対するアセスメントの意識付けを図る事が出来た。また、2/5、圏域ケアマネ会主催の事例検討会では、居宅介護支援事業所から出された処遇困難事例について手だてや見立て等について検討を行なった。事例検討を通じて多様な視点によるアプローチ方法等、専門性を高める為の学びの機会となった。

#### 5. 高齢者や地域住民が抱える課題を把握し、住みやすい地域を目指した取り組みを行ないます。

- ・個別相談や対応を通じて地域課題を探っており、現在も同方針を継続している。特に蒲田市営住宅管理組合や居住している高齢者に対するインタビューを行なった他、市営住宅住民に対するアンケートを実施し、管理組合の視点による高齢者や地域に関する情報について聞き取る事が出来た。また、住民からは性別や世代に関係なく買物や通院等、外出に対する課題を感じている現状を確認する事が出来た。長年、蒲田市営住宅へのアプローチを検討していた為、今回、管理組合や住民と接触出来た事は大きな収穫となった。
- ・通常の総合相談業務を通じてビジネスケアラーの現状について探ったところ、本人の家族が占める割合が高い現状を把握。ビジネスケアラーを含む介護者に対する支援の取り組みについては、個別相談を通じて家族の声を聞き取っていく事を進め、今後もヒントを探っていく方針としている。

#### 6. 介護予防支援事業の安定した運営並びに、介護予防プランナーのケアマネジメント力向上を目的とした取り組みを継続します。

- ・今年度予算として掲げていた年間の月平均給付管理件数「418件」を下回り、「412件」の実績結果であった。令和5年3月以降保持してきた給付管理件数400件以上を、令和7年1月より下回っている状況が続いており、その主な理由としては、業務委託で多くの件数で関わっていた居宅介護支援事業所2カ所が介護予防支援指定を取得し、順次直接契約へ移行した為、実績件数に影響があったと考えられる。
- ・介護予防プランナーの資質向上及び、介護予防支援業務に伴う適切な法令遵守の理解を目的として、職場での内部学習会を年間で計4回開催する事が出来た。今年度は介護予防支援業務を行なう上での利用者や家族とのトラブル、個人情報の取り扱い、給付事故等、リスク管理について共有した。次年度は新任職員が入職する予定である為、継続的な学習会を企画していきたい。
- ・人事については、介護予防プランナーの退職者が令和6年5月15日付で1名あったが、その後は変動なし。

文責：杉本

## 2024 年度箱崎拠点事業活動総括

2024 年度は箱崎拠点として経営的に厳しい1年となった。累計で収益予算を達成した事業所は箱崎ハウスのみだった。特に在宅部門での稼働がなかなか安定せず、小規模多機能、通所介護どちらも収益予算に対し大幅未達で終了した。

高齢者への新型コロナ感染リスクは依然高い状況ではあるが、利用者の外出レクや地域の防災訓練への参加等、利用者の QOL 向上に向けた取り組みや地域活動の再開ができた。小規模多機能ではユマニチュードの認証取得を目指して取り組みを開始したことでケアの質が向上した。

働きやすい職場作りにむけて、申し送り業務の見直しや環境整備に取り組んだ。教育面ではアテントマイスタープロ研修の継続や、ユニットリーダー以上を対象とした心理的安全性の学習、5 年目以上の職員を対象とした中堅職員の役割研修の実施ができた。

文責：門司

1. ケアの質と利用者のQOL向上でサービスの質を高める

- ・今年度100歳の利用者様3名の方には、それぞれ家族と相談しながら100歳のお祝い会を企画した。家族が中心となり、交流スペースに集まって祝われた方が2名、職員が付き添い、家族とともに自宅で祝われた方が1名あった。
- ・相談員、レクボラ委員会が中心となり、初めての文化祭を行った。各々の作品を交流スペースに飾り、家族や利用者にも喜んでもらえた。フロア毎に行事やレクを企画し利用者の活動性を高めることができた。外出レクでは季節感を肌で感じる事ができた。
- ・家族面会時には、普段の様子を写真や動画を活用しわかりやすいように伝えた。また市中の感染状況に合わせて家族面会時間の延長、面会時間外も受け入れるなど柔軟に対応できた。看護及び多職種で感染対策を実施し、今年度の感染症発生はなかった。
- ・現場で統一したいことや困りごとについて委員会内で学習（誤嚥や窒息、軟膏、移乗介助、記録、爪切り）を行い質の向上につなげた。
- ・LIFEのフィードバックにより全国的な比較をすることで必要なケアを把握し事業所にフィードバックできた。

2. 人材確保、職員育成、働きやすい職場作りを行う

- ・アテントマイスタープロの研修終了者が2名、外部研修7回、お茶の水研修15回、ネット研修等にも参加し、ユニットの差はあるが前年度より増加した。
- ・今年度は介護福祉士を2名が受験、介護支援専門員を1名が受験し合格した。
- ・八田と合同で業務改善推進委員会を6回行った。伝達事項はケアカルテの掲示板を活用することで、申し送り時間を短縮し、別の業務に取り組む時間を確保することができた。
- ・育成面接以外でも面談を持ち、現場の状況把握に努めた。ユニットごとに課題があり、職員の成長を促進する意味で大幅な異動を行った。年度末には派遣職員がゼロとなり、委員会、担当利用者、フロア業務など、役割分担における職員負担が軽減できた。
- ・職員の異動により、助勤しやすい体制になった。業務内容については、フロアごとに差があり質の高い介護を目指し、次年度は標準化していく。
- ・実習生の積極的受け入れした。現時点で採用には結びついていないが、施設の雰囲気が良かったので就職に向けて、再度見学したいとの声が学生からあった。

3. 予算達成を追求する

- ・床稼働率予算95.5%に対して年間平均は91.3%と目標達成には至らなかったが、平均介護度が上がったことによる日当円の上昇、人件費が予算を下回ったことで年間の経常利益予算は達成することができた。
- ・入院総数は前年度の604日から691日へ増加。入院者数でも前年度の21名から30名に増え、かなり厳しい状況であったが、1人当たりの入院日数は前年度より平均3.8日減少させることができた。入院及び退所後の空床を54日利用することができた。
- ・今年度の退所者は14名と前年度の6名から倍増した。入所者の重度化に伴い29名中のおよそ半数が入れ替わるという大変な年となったが、多職種連携しギリギリまで施設で看ることができた。退所判断は早めできたが、入退所ロス18.5日で次の入所までに時間を要した。全体的に入所待機者の減少があること、医療依存度の高い待機者が増えていること、入院してすぐに逝去するなど急な退所が要因となった。
- ・空床状況、入所待機者状況など八田拠点と連携を図り入退所ロス削減を図ることができた。

4. 地域との連携、社会保障運動に取り組む

- ・運営推進会議で九大跡地の問題やマンションや工場建設による日照権の問題など地域の課題を把握し、署名などで協力することができた。また、事業所ネットワークを通して地域の防災訓練に職員が参加し、専門的視点からの意見を出すなど地域協力ができた。
- ・社会保障運動では介護ウェブに現場職員から参加し職員の処遇改善や介護保険の抜本的改革を訴えることができた。

## 2024年度 いきいき箱崎ショートステイ 事業活動総括

1. サービスの質の向上や個別援助を強化し「居心地がいい」と思えるショートステイ」を目指す
  - ・毎月2名の担当を決め、レクリエーションや行事等の実施を行うことが出来た。
  - ・個別としては歩行訓練、集団で体操・脳トレなどを中心に行うことができています。
  - ・今年度の満足度アンケートでは、「食事がおいしい」といった内容や、「利用中家族の負担軽減が出来ている」といった感謝の内容が多くあった。
  - ・専門用語を使用せず、わかりやすく記録することを意識して取り組み、家族やケアマネより具体的でわかりやすいとの評価があった。
  
2. 在宅生活を支えるサービスとしての支援の強化およびリスク管理を行う
  - ・事故31件、ヒヤリ31件。昨年と比べ事故はマイナス23件、ヒヤリは同件数となった。行政報告対象の事故は4件だった。定期利用者の入れ替わりにより、事故が減少したことが主な要因であるが、ヒヤリを上げることで、事故予防への意識向上が図られているため、次年度も継続していきたい。
  - ・暴力行為やセクハラ行為など困難事例の受け入れがあった。職種間で意見交換を行い対応することができた。積極的にコミュニケーションを図り互いの意見を尊重し、より良いケアの提供を。
  
3. 利用者確保・床稼働の安定化 目標 90.0%稼働 9.9人/日
  - ・平均稼働87.6%（入院床込み88.9%）で予算未達。長期利用者の特養入所、急変による逝去など、安定した稼働の維持ができなかった。少しずつ定期で利用したい方が増えてきている。継続して利用してもらえるように居宅介護支援事業所との情報共有に力を入れていきたい。
  - ・入院床の活用実績として3ユニット計54日間。ショートステイの受け入れが初めての職員もいたが、各ユニットリーダー、ショートステイ職員の協力により利用することができた。
  - ・ショートステイ所属職員の床稼働に対する意識が構築されてきた。ユニット職員の異動もあったが大きな混乱なく、新規の受け入れが継続できた。
  - ・八田拠点と長期ショート空き状況などを共有し、連携を図ることができた。

文責：太田

## 2024年度 小規模多機能ホームのどか 事業活動総括

### 1. 豊かで希望のある在宅生活を継続するケアの実践

- ・職員全員が臨機応変に対応、連携を図りながらデイサービスの送り出しヘルパーが見つからない事例などでものどかが引継ぎ在宅生活の継続ができた。
- ・ご本人、ご家族の協力もあり今年度は感染症の蔓延なく周年祭、クリスマス会など開催できた。
- ・「わたしのこれからシート」の聞き取り、作成を行い救急搬送時に本人の想いが尊重されるようにした。
- ・毎月の個別カンファレンスの在り方を検討したため以前より支援内容が意識しやすく実践できるようになった。ユマニチュードケアにチームで取り組み一体感が出ている。利用者、家族より「ここの職員さんみんないいね」とよく言われ満足度アンケート結果も良かった。

### 2. 職員育成、チーム作り

- ・声を掛け合い、時には雑談して楽しい職場作りができた。役割分担し協力して取り組みを行った。一人一人が挨拶や整理整頓など働きやすい環境を心掛け離職者0だった。
- ・職員の得意、不得意を活かして安心、安全なケアを提供し、分からなければ聞ける環境が出来た。
- ・認知症実践リーダー研修受講し現場で「気づき」の共有を行いケアの実践に活かした。
- ・東区小規模多機能連絡会の事例検討会に3名参加（年3回開催）多職種連携研修会での事例検討会に2回参加。運営推進会議にて事例検討実施、認知症学習会では事例提出し実際のケアに活かせる学びがあった。看活研での事例発表もライフサポートワークにもとづいた事例だった。

### 3. 利用者確保と安定した事業運営 目標 22.5名/月 平均介護度 2.7

- ・実績 20.9名/月 平均介護度 2.4 予算達成したのは2月のみで大幅に予算未達成となった。
- ・2か月に一度のどか便りと、新しいパンフレットも作成し病院、包括、居宅への営業活動と近隣住宅へのチラシ投函を職員も協力しのどか全体で営業活動を行った。
- ・運営状況を法人管理者会議や拠点管理会にて報告し他部署との情報共有を行い協力しあった。
- ・認知症加算の変更に伴い今年度認知症実践リーダー研修受講し来年度より上位加算算定できるよう体制を構築した。

### 4. 地域の事業所として地域活動を行う

- ・認知症サポーター養成講座、声掛け訓練、ユマニチュード講座を地域で15回開催した。声掛け訓練の成果か、のどかのご利用者を地域の方が保護して連絡をいただいたこともあった。
- ・地域サロンへの体操講師派遣（3年間毎月実施）、校区避難訓練への参加、はこぎきカフェへ利用者と一緒にいき読み聞かせを行う等の地域貢献を積極的に行った。
- ・運営推進会議をきっかけに箱崎校区の防災訓練に参加した。のどかだけでなくはこぎまネットでも協力依頼し18名の参加があり地域防災に関して協力しあえるきっかけとなった。
- ・介護する家族の会年4回開催、認知症110番活動、東区オレンジちゃんねる動画作成、RUN伴等行い認知症の啓発を行った。介護職員の勉強会として事例検討会を3回開催し学び合った。
- ・社保委員を中心に署名活動行い、学習会に参加した。

文責：山下

## 2024年度 いきいき箱崎デイサービス事業活動総括

1. 働きやすい職場づくりと職員育成に取り組む。
  - ・日勤帯でのレク・入浴・着脱・排泄等の業務担当制を定着させ業務量の平準化を図った。計画書およびモニタリングの作成時間を確保し、遅滞なく報告できるよう努めた。
  - ・外部研修や学習会に参加し能力向上が図られた。
2. 質の高い介護の実践
  - ・事故やヒヤリハット発生時は再発防止策を周知徹底し実行できた。
  - ・体調、身体機能、認知機能の異変時には家族やケアマネへの迅速な報告、悪化防止策を提案実施することで、機能の大きな低下は抑えられている。
  - ・介助方法や接遇については適宜見直し改善を行った。
  - ・接遇の徹底は持続できなこともあり、デイ会議等で定期的に学習している。
3. 予算を達成する。目標 25.0名/日 宿泊 50名/月
  - ・2024年度は予算を達成した月がなかった。
  - ・平均 22.8名 (-2.2名)、日当円 10,325円 (-175円)、収益 85,997,693円 (-9,997,307円) と大きな減収になった。 ※( )内は予算差
  - ・新規 26名、中止 16名だったが、キャンセル率が 11.1%と高く特に 7, 8, 10月のコロナ拡大や台風による影響は大きかった。
  - ・対策として FAX 営業、訪問営業、担当者会議等で紹介依頼を行った。短時間利用や重度認知症等の困難事例を受け入れたことで、年度末は稼働率が上昇してきた。
4. 地域と交流し、地域に貢献する。
  - ・地域の認知症声掛け訓練、防災訓練に参加し交流を深めた。
  - ・千鳥橋病院の健康祭りに参加し、事業所の紹介もすることができた。
5. 感染対策を継続し、稼働率や勤務体制への影響を最小限にする。
  - ・1月にもコロナ感染者があったが、7, 8, 10月のコロナ拡大を教訓として早めの対応を行ったことで、拡大防止ができた。
6. 情勢把握に努め、社会保障や介護保険の改善運動に取り組む。
  - ・職場会議で情勢学習を行ったが、短時間だったため充実した内容ではなかった。今後は職場会議以外での情勢学習も検討していきたい。
  - ・介護ウェブ、署名活動もほとんどの職員が積極的に関わってきた。

文責：松本

## 2024年度 いきいきハウス箱崎総括

### 1. 21室満室を維持する。

- ・今年度の入退去は4名。のどか利用者1名、ケアマネの紹介2名、既存入居者の紹介1名だった。
- ・年度初めは19室だったが、4月と5月に入居が決まり約1か月で満室になった。8月と10月には特養に1名ずつ入所となったが、すぐに入居申し込みがあり早期に入居者が決まった。
- ・新規の申し込みは10名。内訳はデイ利用者1名、のどか利用者2名、過去の利用者家族2名、ケアマネ紹介1名、インターネット4名だった。3月末時点の待機者は10名となっている。

### 2. 健康管理を図り、サービスの適合性を高める。

- ・7月に2名、10月に3名、1月に3名のコロナ感染者があったが、部屋食やゾーニングを迅速に実施したため感染拡大はなかった。
- ・認知症の進行に伴い盗られ妄想や暴言のあった入居者は、家族・ケアマネ・医療機関との連携を図り対応方法、環境整備、服薬調整にて症状が落ち着いた。

### 3. 複合施設としての利点を活かし、入居者の満足度を高める。

- ・転居先として箱崎や八田の特養に移った方が2名いた。のどかの支援でハウスでの生活が継続できている入居者は4名いる。
- ・デイと共同で行事を実施し楽しんで頂いた。  
7月…そうめん御膳、8月…夏祭り、12月…クリスマス会、1月…餅つき。  
餅つきは子供の時を思い出して、「本当に久しぶりで楽しかった」との声が聞かれた。
- ・自費サービスは服薬管理11名、夜間巡回2名、身体介護2名、金銭管理4名、外出援助2名。

文責：絹川